

新害虫2種

キンケクチプトゾウムシと
ケグロキロアザミウマ（仮称）

昨年から今年にかけて、従来我が国で発生が認められなかったキンケクチプトゾウムシ及びケグロキロアザミウマの発生が確認された。

キンケクチプトゾウムシは、ヨーロッパ、北アメリカ、オーストラリア等で、イチゴ、ブドウ等を加害する重要害虫として知られており、侵入を警戒していたものである。今のところ、発生は静岡県内にある園芸会社の1農場に限られているが、そこから出荷された園芸植物とともに一部分散した疑いがあり、追跡調査と農場内の防除が進められている。

一方、ケグロキロアザミウマは、本情報第4号で既報のとおり、昨年来、静岡県や九州各地で主として施設の果菜類に対する被害が問題となっている。

以下、2種の新害虫について、発見の経緯、虫の形態及び生態を紹介するが、調査等に当たり参考となれば幸いである。

キンケクチプトゾウムシ

学名：*Otiorhynchus sulcatus* (F.)

英名：Black vine weevil, Vine weevil, Cyclamen borer

発見の経緯 静岡県駿東郡小山町の園芸会社農場で、最初に本虫の発生に気づいたのは昨年8月下旬～9月上旬頃であるという。

シクラメンの鉢上げ作業中、根部に白い幼虫の存在を確認したが、その時点では株の生育異常は認めず、鉢上げ後加温栽培に移ってから、生育遅延、葉の凋れ等異常株が現われ、10月頃にはこうした異常株が100～150鉢発生し、1鉢に数頭から10数頭の幼虫が確認されたとのことである。

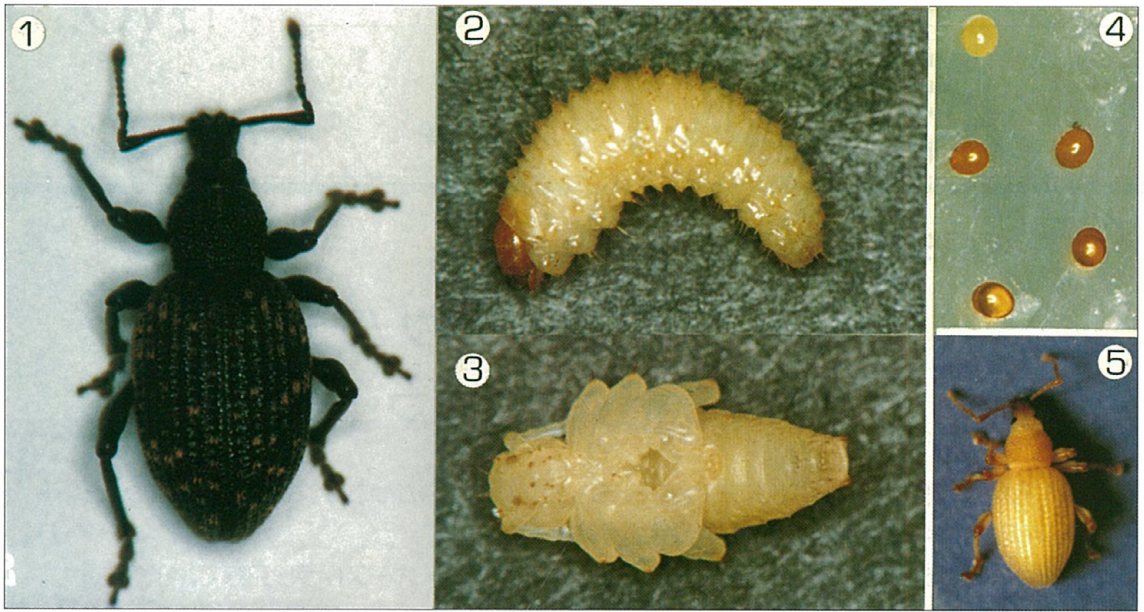
みなれない害虫であるため、同農場から東部農業改良普及所御殿場支所に連絡され、東部病害虫防除所、静岡県農業試験場を経て、今年1月、横

浜植物防疫所害虫課に同定依頼があり、キンケクチプトゾウムシであることが確認された。

発生確認以来、名古屋植物防疫所が同農場内の発生状況について、綿密な調査を実施しているが、発生は約11万㎡の農場敷地内中約6,000㎡の範囲であり、農場内での発生はまだ限定された状態にある。発見当初は温室内の発生と考えられたが、



成虫による食害痕（イチゴ）



①成虫(体長約10mm) ②成虫(約10mm) ③蛹(約10mm) ④卵(約0.7mm) ⑤羽化直後の成虫

調査が進むにつれて野外におかれているポット植えのコトネアスター、ピラカンサに寄生が集中していること、さらに雑草のヒメスイバ根部にも高密度な寄生が発見され、温室内シクラメンの汚染は夏季の野外育苗時に2次的に起ったものと推定されるに至った。

一方、同農場からはシクラメン、コトネアスター、ピラカンサ等がかなりの都府県に出荷されているため、植物防疫所が関係都府県の協力を得て、流通先の追跡調査を実施している。これまでの調査では、東京都下に出荷されたコトネアスター、シクラメン及びベゴニア、神奈川及び静岡県下に出荷されたシクラメン、広島及び大阪府下に出荷されたコトネアスターで本虫の付着が発見された。出荷植物の流通先は、一部不明なものがあり、調査は全国的に慎重に行う必要があるので、農林水産省は各都道府県に対して本虫の発生について調査しその結果を報告するよう指示、すでに調査が開始されている。なお、侵入経路については、目下植物防疫所において解明を急いでいる。

寄主植物 (被害が問題となる寄主植物) イチゴ、ブドウ、シクラメン (その他の寄主植物) 花き類：サクラソウ、ゼラニウム、ベゴニア、ベンケイソウ科植物、キク、ユリ 花木類：フジ、ツツジ、

シャクナゲ、ツバキ、コトネアスター、ピラカンサ その他：マメ科牧草、ホップ、ツガ、トウヒ、イチイ、オオバコ、ギシギシ、ヒメスイバ等。

被害の特徴 成虫は葉の縁を半月状に食害する。幼虫は根部、特に柔かい細根を好んで食害し、被害が進むと植物を衰弱枯死させることがある。

形態 成虫は体長約10mmで、体全体は黒～黒褐色である。口吻は太くて短い。前胸背はほぼ一様にいぼ状。翅鞘には条線があり、黒褐色の細い毛の他に、金色の太い毛の群が斑点状に散在する。

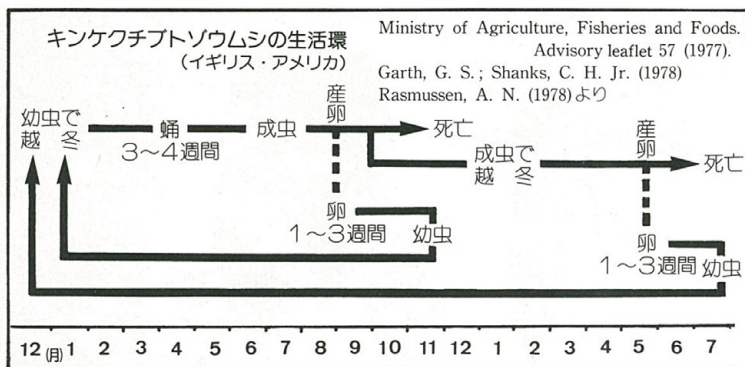
本属には、本虫以外にも金色の毛を持つものがあるが、有用植物を加害するのは本種のみである。老成虫では、時に金色の毛が摩耗しているものがあるが、他のゾウムシ類との区別は容易である。なお、羽化1日未満の成虫は全体が白色である。**生態** 成虫は夜間に活動する。歩行のみで飛しようはしない。原産地のヨーロッパでは、雄の存在が知られているが、雌だけによる単為生殖が一般的である。昼間は、地上の落葉の下など直射日光の当たらない湿った場所に潜んでいるが、夜になると摂食、産卵などの活動を行う。成虫の分散は約2ヶ月で30m程度という報告がある。羽化は5月頃からと予想され、約1ヶ月後から産卵が始まる。産卵は周期的に数回に分けて行われるようで、

1 雌あたりの総産卵数は500～600個とも200～2,000個ともいわれる。産卵場所は、寄主植物の根際の表土から土中にまで及んでいる。卵から成虫までの期間は、15℃で200日、24℃で130日といわれる。

本虫の生活環は、右図のとおりである。

調査に当たっての注意 調査の一つ

の目安は、成虫による葉の食害痕である。写真のように葉縁から半月状に食害するのが特徴であるが、複合すると、必ずしも半月状を呈していない場合がある。成虫は夜行性で、昼間は落葉の陰や株元の間隙等に潜んでおり、しかも土との区別が付きにくいので、捕獲が困難である。簡単な捕獲法としては、底の深い空カンや空ビンをつまみとして利用するとよい。この中に適当に湿らせたオガクズを薄く入れ、脱出を防ぐため内側にワセリン等を塗り、口が地表面と同じ高さになるよう埋込んでおくと、夜間に活動した成虫が捕獲できる。また、幼虫の調査は草本植物の場合、多数寄生



していると、地上部が凋れたり、枯死することが多いので、調べると土中に白い幼虫が確認できる。

防除対策 防除農薬については、静岡県と植物防疫所が、殺虫試験を継続中である。現在までの試験で、幼虫に対しては、サリチオン乳剤及びDMTP(スプラサイド)乳剤等、土壌くん蒸の場合EDB油剤とクロルピクリンが有効と考えられる。

発生農場に対しては、とりあえずEDB油剤による土壌くん蒸とサリチオン乳剤の土壌散布を併用した試験的防除が実施された。なお、成虫の防除にはMPP(バイジット)乳剤、DMTP乳剤等の1,000倍液でよい成績が得られている。

ケグロキイロアザミウマ(仮称)

学名: *Thrips palmi* Karny

発生状況 農林水産省植物防疫課が5月26日までにとりまとめたところによると、本アザミウマの

発生は、11県2,080.5ha(施設面積)に及ぶことが判明した。発生が確認されたのは、静岡100ha(メロン)、愛媛0.2ha(ナス)、高知655ha(ピーマン、ナス、キュウリ)、福岡60ha(ナス)、佐賀3.5ha(ナス)、長崎3ha(キュウリ、プリンスメロン、ナス)、熊本11ha(ナス、メロン、キュウリ)、大分1ha(キウ、キュウリ、ナス)、宮崎1,202.6ha(ピ



ナスの被害果

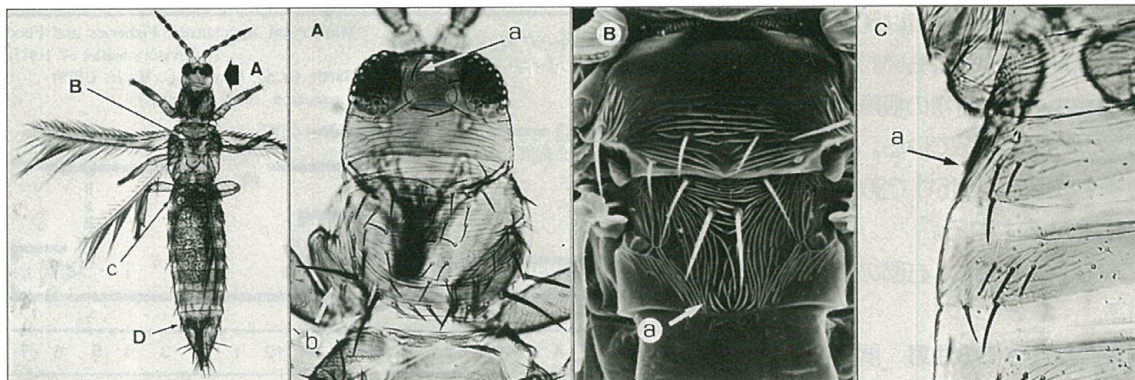


スイカの被害葉



被害葉上の成虫

3枚とも 鹿児島県農試 堀切正俊氏提供



成虫

頭部及び胸部

後胸楯板

腹部第2節

ーマン、キュウリ、メロン)、鹿児島43.7 ha (ピーマン、キュウリ、スイカ)、沖縄0.5 ha (スイカ、キュウリ、ニガウリ) である。

被害と特徴 被害の症状は、植物の種類によって異なるが、概ね次のような類似点が見られる。

葉では、裏面にかすり状の小さな食害痕を生じ、多発すると葉は茶褐色となり、湾曲し、枯死することもある。

果実では、着色しなかったり、緑色や青味が薄れたりする。部分的あるいは全体的に表面が褐色となり、曲果などを生じる。

株全体の症状としては、生育が停止したり、ひどい場合には枯死する。

また、従来からアザミウマ類の防除に使用されているDDVP剤、アセフェート剤等では、本虫の防除効果が著るしく劣るといわれており、農薬の効きが悪い場合は、一応ケプロキロアザミウマであることを疑う必要がある。

形態による見分け方

野菜類から発見されるアザミウマ類の雌を対象とした場合、本虫の形態的特徴は次の通りである。

- ① 全体的な色彩は、黄色で褐色や黒色ではない。
- ② 体は微毛で覆れない。
- ③ 触角は7節である。
- ④ 前胸は2対の長刺毛を後縁角に具え(A-b) 前縁部には長刺毛はない。
- ⑤ 腹部第8節後縁だけに櫛歯状突起(Dの位置)を具える。
- ⑥ 腹部第3～7節の各腹板には、後縁に3対の刺毛を有するだけで、副刺毛はない。

⑦ 腹部第2節背板の側縁には5本の刺毛を具える(C-a)。

⑧ 単眼間刺毛(A-a)は、後方単眼の真前方で前方単眼のほぼ側方に位置する。

⑨ 後胸楯板後方部(B-a)の縞模様は縦条となり、網目状にはならない。

⑩ 触角の第1節は白黄色、第2節は橙黄色、第3～5節の基部半分は黄色、先半分は黄褐色、第6節及び第7節は褐色となる。

生態と防除法 本種の生態については、今のところ明らかでなく、被害の状況からすると、我が国に普通に発生しているキロハナアザミウマに類似しているようである。

ケプロキロアザミウマは、従来のアザミウマ類に対する農薬では、防除効果が著るしく劣るため、発生各県では早期発見による初期防除の徹底、苗床の寒冷紗被覆、栽培ほ場周辺の雑草の除去等による環境浄化等で被害防止を図るよう指導している。

(注) 従来本種には和名(仮称)としてケプロキロアザミウマが用いられてきたが、近く工藤敏氏(静岡聖光学院)によりミナミキロアザミウマとして、「植物防疫((社)日本植物防疫協会発行)」に発表される予定である。

発行所 横浜植物防疫所
〒231 横浜市中区北仲通5-57
横浜農林水産合同庁舎

☎045(211)2299
発行人 森 武 雄
編集責任者 井 上 亨
印刷所 川口印刷工業株式会社東京工場
〒114 東京都北区昭和中3-8-2
☎(894)0101